

行政評価委員会説明資料

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)

官民共創による塩尻型MaaS構築事業

(市事務事業:塩尻型MaaS構築事業)

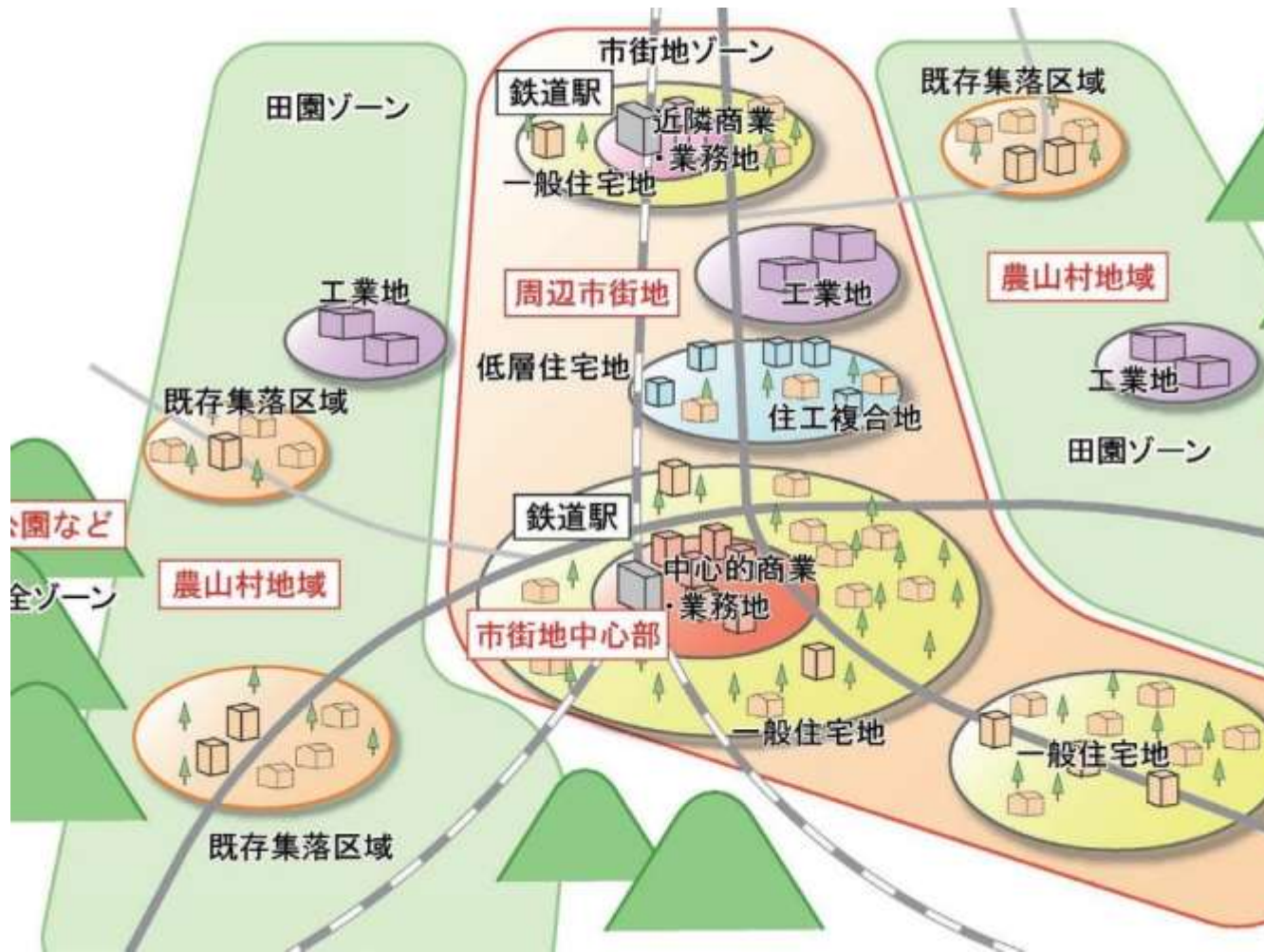
塩尻市が交通DXに取り組む背景

塩尻市の目指す都市像
= 田園都市構想

“市街地の便利な暮らし”

“農山村集落の豊かな暮らし”

の両立



2020年の交通状況

定時定路線バス

- ・ 1999年民間路線バス撤退
→市営コミュニティバス
- ・ 10路線
- ・ 年間コスト約1億円

JR

- ・ 近隣都市部への通勤・通学
(松本市まで約15分)
- ・ 市内移動は限定的
(1時間に1本)

その他

- ・ タクシー事業者3社
- ・ 福祉輸送(市補助)

官民連携による自家用車から地域公共交通サービスへの転換

背景

- 高齢ドライバー増加による事故リスク増大
- 塾や病院送迎等、現役世代への負荷
- 自家用車所有による家計負担
- まちづくりへの影響（駐車場確保、郊外化）
- 環境配慮（カーボンニュートラル、シェアリングエコノミー）

課題

- 公共交通サービスの不足（サービスレベル、種類）
- ユーザーの意識改革（自家用車所有からの脱却）

産学官民共創により既存サービスの高度化と新たなサービス創出に取り組む

実施区域：塩尻市全域（近隣市町村との連携も随時検討）

2025年を1次到達点とし、
地域のリソースを集中投資

次世代交通がもたらす
安心して便利に暮らせる
地域社会の“実感”

塩尻市
目指す都市像

行政×民間企業×地域住民の
アライアンスによる交通DX

2025

地域
イン
パクト

- ・ 交通DX分野の企業等集積
- ・ 新たなDX分野へのチャレンジ
- ・ 小中高大学生へのDX体験
- ・ 地域デジタル人材の活躍

2020

自動運転Lv4チャレンジ × 地域MaaS

MaaS/Beyond MaaS実証実験・社会実装

AI活用型オンデマンドバス実証実験・社会実装

自動運転実証実験開始【民間企業との関係性構築】

課題

担い手不足（運転士、DX）

限定的な公共交通（JR、コミバス）

新たな地域課題

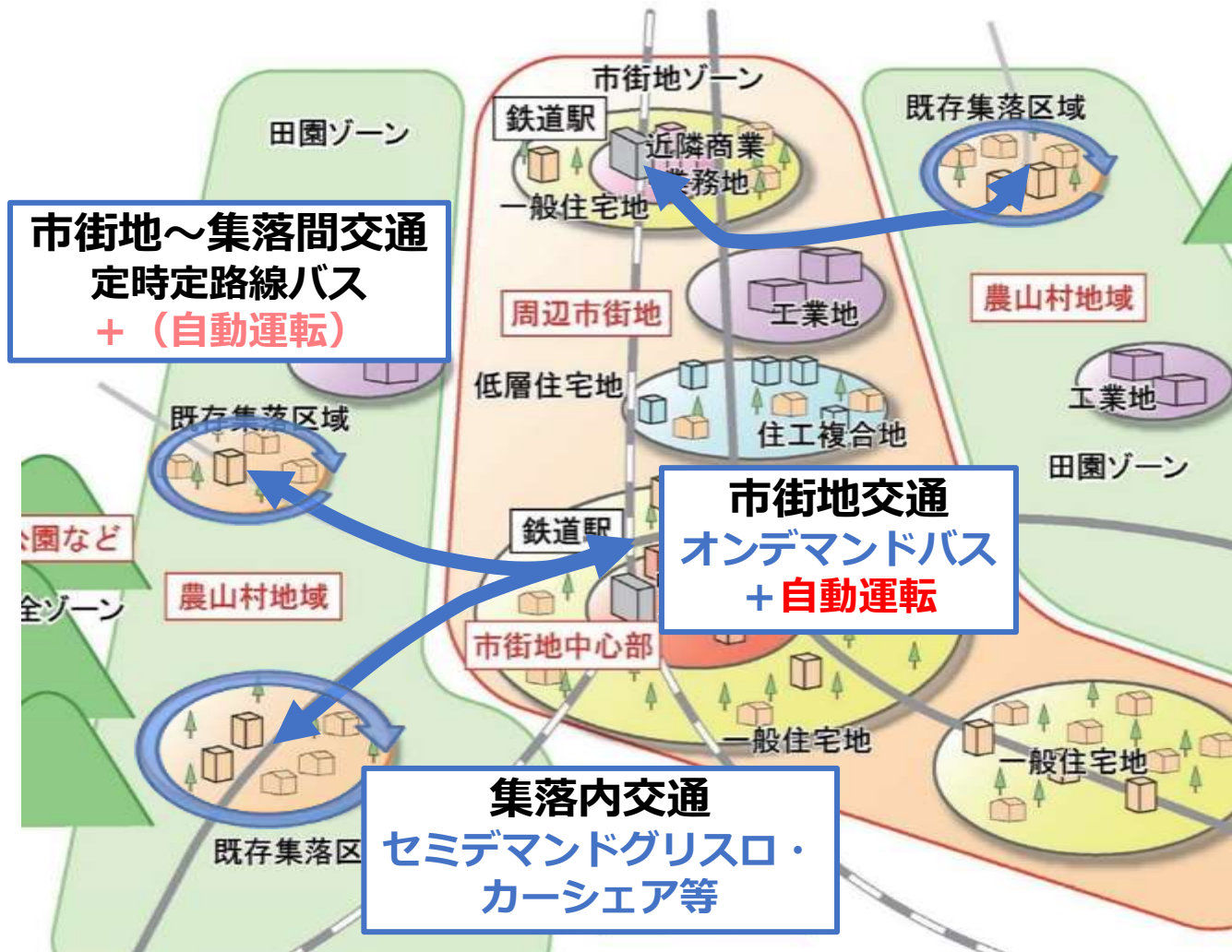
強み

地域デジタル人材「KADO」

官民共創プラットフォーム

都市の規模感・機能集約

コンパクトシティ・プラス・ネットワーク



自動運転

次世代の地域交通を支える基盤技術として、技術・社会受容性・事業化の観点から官民連携で実証実験を推進し、**2025年の地域実装**を目指す

オンデマンドバス

MaaS領域の具体的アウトプット第一弾として、多くの課題を抱える**市街地コミュニティバス**を代替するサービスとして社会実装

MaaS

交通DX基軸とし、**地域課題の解決や地域住民のQOL向上につながる新たなサービス**を開発・実装

社会実装に向けて実証中の「のるーと」を核とし、それに続く形で乗合タクシーやグリスロ、自動運転バスなど様々な実証・社会実装を推進



塩尻MaaSの目指す姿

誰からも喜ばれるスマート田園都市 しおじり
“市街地の便利な暮らし”と“農山村集落の豊かな暮らし”の両立

【地域MaaSの目指す姿】

塩尻市にとどまらず、「市周辺地域」、「地方中核都市圏*1」に向けた地方創生ソリューション確立

塩尻で生まれたサービス・ノウハウの横展開を通じた、地方都市創生への貢献

【2025年度：塩尻市のMaaSとして目指す姿】

安心して便利に暮らせる地域社会の実現

都市部企業集積・地域企業参画による
地域経済活性化

キャリア教育・地域人材育成の場の提供

利便性高く持続可能な交通/
移動の公共交通シフト/
渋滞解消・CO2低減

地域内消費活動活性化
（「小売・農業・観光等の地域資源」×「移動・輸送」）

交通事故の低減/
地域への先進技術・ノウハウ継承



*1国土交通省全国パーソナル調査に基づく分類。塩尻市は地方中核都市圏（中心都市40万人未満）の周辺都市に区分

*2複数の交通サービスをシームレスに統合するMaaSの概念を越え、異業種との連携によって新たなビジネスを創造すること

<凡例>

取組テーマ

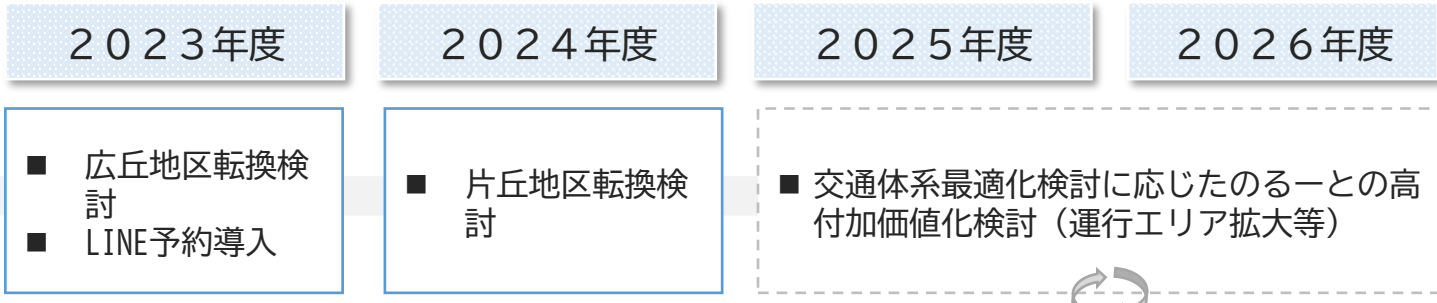
施策案

MaaS関連事業の詳細ロードマップ

都市計画課



のりーと



最適化検討
Beyond MaaS



レベル2+

レベル2+一部レベル4



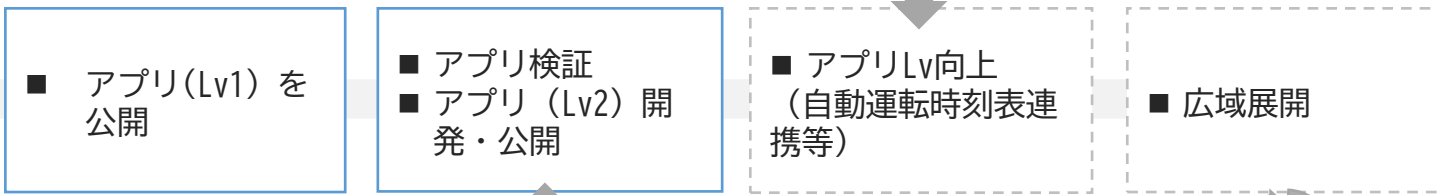
自動運転



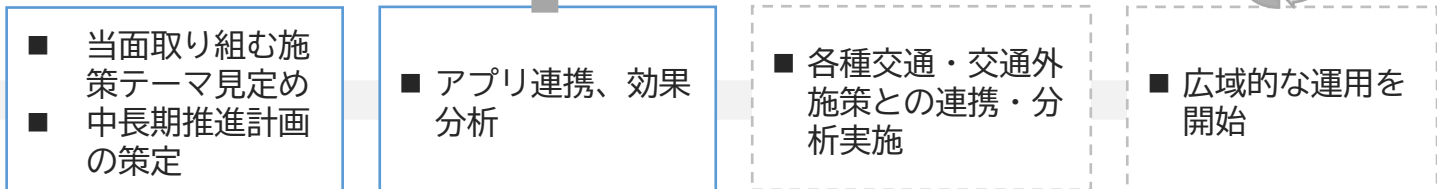
先端産業振興室



MaaSアプリ



ダッシュボード



のりーとを中核とした交通体系の最適化

MaaSの考え方とアプリの役割





取組み背景

自家用車を前提とした移動から公共交通への転換

- ✓公共交通を取り巻く環境は年々悪化する一方、自家用車を保有・利用できない住民も一定数存在
- ✓交通渋滞や、移動に伴う環境負荷の低減も必要

コンセプト

地域密着/生活者視点で、公共交通を選択肢に引き上げる

- ✓地域密着型でその地域の交通課題に沿うMaaSアプリを展開

MaaSアプリ概要

コンセプトを体現する3つの特徴

1. LINEを活用したUI設計 操作方法の習得が容易、新たなユーザ登録も不要
2. 公共交通利用促進のための地域情報発信（将来的） 地域イベント等移動を促す情報を手軽に発信
3. 公共交通利用を支える包括的な機能群 時刻、経路など公共交通利用時の支援情報を掲載

ダッシュボードについて

ダッシュボードとは

- ダッシュボードとは、大量のデータを収集・分析し、集計値や表、グラフなど分かりやすい形で可視化するツール。
- 分析結果を一覧表示し、都度各データを参照する必要がなくなる。

※自動車の運転席にある、計器類が取り付けられた場所のことをダッシュボードと呼び、これが転じて、様々なデータを一覧表示する画面という意味でつかわれる。



活用メリット

1 正確な現状分析と迅速な意思決定の実現

- 現状把握に必要なデータを一つの画面で確認できる。
- 事業ごとに散在しているデータを一元管理することで、正確な分析に基づいた素早い意思決定が可能に。

2 リアルタイム共有

- リアルタイムの情報をいつでもどこでも関係者間で共有することができ、効率的に作業ができる。
- 数字の変化や打ち手の効果などが瞬時に確認でき、PDCAサイクルが高速且つ戦略的に実行される。

3 データ集計と資料作成の工数削減と効率化

- 資料削減の工数を削減できる。
- 単純集計では分からなかった、クリティカルな課題が確認でき、レポートの精度が向上する。

現状の機能での活用

将来的な発展要素

1

政策立案



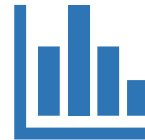
- 現状課題に基づき政策を立案し、その実施判断・実施後の効果検証を行う。

例

- ・ 「新たな交通サービスの導入」という政策仮説の検証のため、自動車ODデータ、人口データなどを活用し、導入後の需要予測を行う。

2

事業のモニタリング



- 事業効果を日々モニタリングすることで、高速でPDCAを回し、効果的に事業推進を行う。

例

- ・ MaaSアプリの効果検証
- ・ 段階的にすてっばくん、のるーと、シェアサイクルなど複数のモビリティの利用状況をモニタリングし、総合的な事業マネジメントを行う。

3

シミュレーション



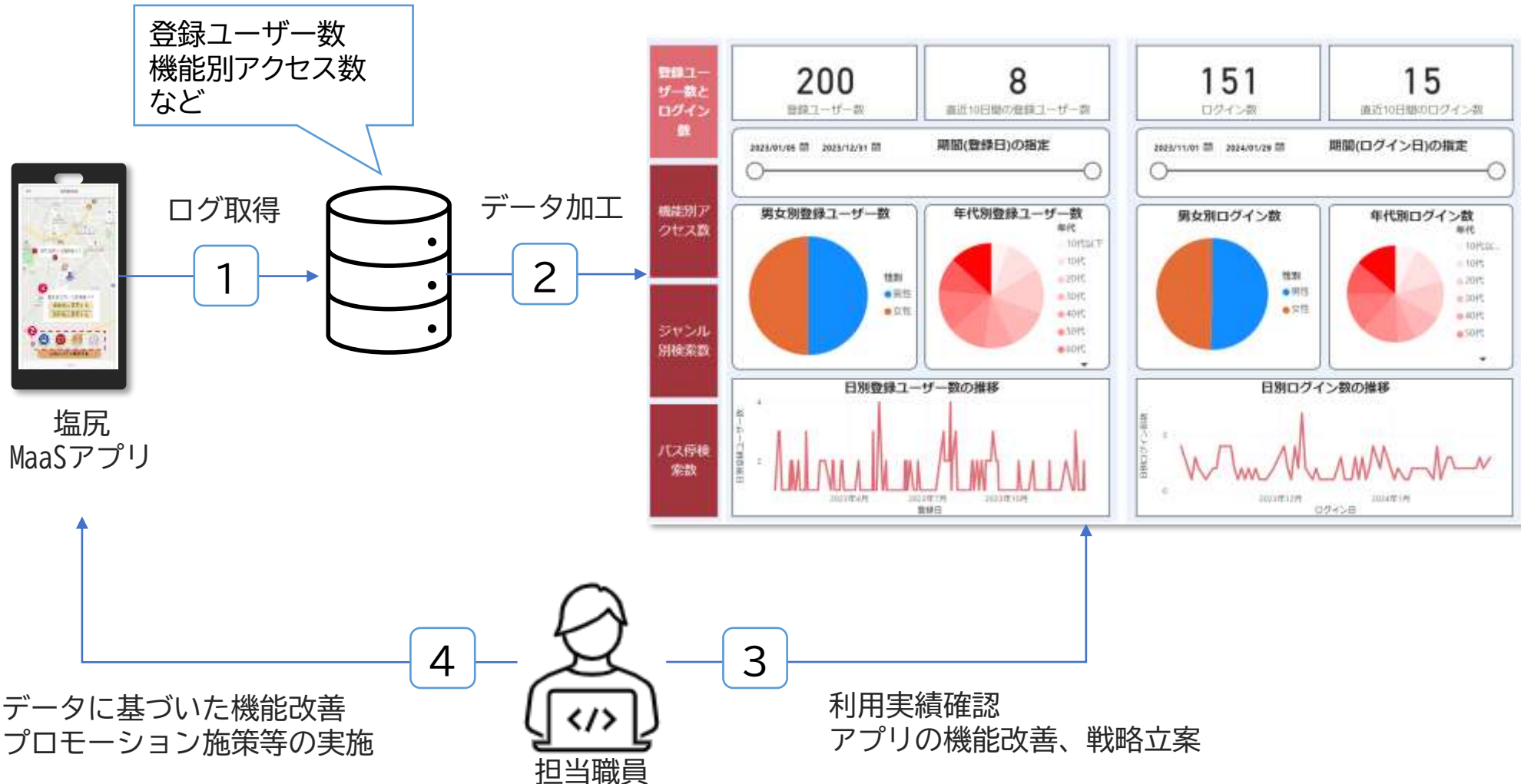
- 変数を入力することで、検討している施策の効果を事前に確認し、政策立案につなげる。

例

- ・ のるーと運行エリア拡大に伴う待ち時間
- ・ 自動運転の運行に伴う利用者数等の効果シミュレーション

MaaSアプリの管理用ダッシュボード

MaaSアプリの利用状況をDBに蓄積し、ダッシュボードとして日々の利用状況をモニタリング



全体計画およびKPI

		2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
予算内訳・内容	①アプリ/ ダッシュボード事業	<ul style="list-style-type: none"> MaaSアプリの試作品を構築し、アンケート・ヒアリングを通じて効果検証を行う。 BeyondMaaS領域の実現可能性調査、実証実験を通じ、アプリとの連携可能性を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートなどの結果に基づき機能のアップデートを行い、市民サービスとして実装する。 アプリで取得したデータの可視化分析を行うと共にBeyondMaaS領域における実証事業の具体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アプリのデータを活用した利用促進活動の強化を行い、公共交通の利用者増加を目指す。 ダッシュボードは日常的な利用を定着させるとともに、運用にあたり地域人材の活用を行う。
	②BeyondMaaS事業	<ul style="list-style-type: none"> 塩尻MaaS研究会で運営する分科会を主体として、BeyondMaaS領域の実現可能性調査、実証実験を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> BeyondMaaS領域における実証実験を実施し、MaaSアプリとの連携を目指した課題整理、要件定義を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> BeyondMaaS領域において取組サービスの社会実装を開始。 MaaSアプリに連携が可能な要素についてサービスを統合し、事業性の向上を目指す。
KPI	①市が提供する地域公共交通サービスの利用者数 (現時点 135,000人)	5,000人	5,000人	6,000人
		0人		
	②MaaSアプリ利用者数 (現時点 0人)	0人	100人	100人
		0人		
	③地域人材のプロジェクト参加者数 (現時点 10人)	10人	10人	10人
		7人		

KPI部分凡例

目標値

見込値

※目標値、実績値は現時点に対する単年度ごとの増加分を記載